

東北を活性化するコミュニティ形成 ～福島県平田村を事例にして～

多摩大学 インターゼミ地域(震災)班
梅田裕介・古西政樹・角野匡子
川合紀子・武田一斎

目次

1. 研究背景	目的&方法/チーム活動
2. 現状と問題点	人口減少/産業/東日本大震災
3. 事例研究	平田村のいきつけの田舎/安心院町の農泊
4. 対策・提案	ひらたむら農泊プロジェクト/道の駅という場(コミュニティ)
5. 課題・まとめ	

福島県平田村

<地理>
福島県の南東部、郡山市といわき市の間に位置する。

<アクセス>
車で郡山駅から1時間、福島空港から約20分。
(多摩大学から約260km)

<観光地>
・日本百低山と東北百名山の
蓬田岳
・春に芝桜が満開になる村の一大観
光スポットのジュビアランドひらた

<主産業>葉たばこ・水稲・畜産に野
菜などを加えた複合型農業

(引用)Livdoor地図 <<http://map.livdoor.com/pref7.html>>

1 研究背景

目的 被災地の問題を解決するための 提案

過疎化と原発風評被害で苦しむ福島県平田村を事例にして

方法 東北の震災復興に関する 継続研究

・先行研究と現地調査によるエスノグラフィックの実証

2-1 現状と問題点

福島県の主要産業と農業

平成22年度の産業生産分布

産業	割合
三次産業	65%
二次産業	33%
一次産業	2%

平成22年度産業人口分布

産業	割合
三次産業	62%
二次産業	30%
一次産業	8%

福島県の主要産業は三次業

> 県内総生産(名目)の内 65%を三次産業が占めている。

> 一次産業の生産金額の割合全体の2%と著しく少ないが、就労人口は全体の8%となっており、農業を中心とする一次産業従事者人口が多いことが見て取れる。

(参考)平成22年度県統計分析課「福島県県民経済計算の概要」

2-2 現状と問題点

福島県と平田村の人口減少

福島県総人口推移

福島県の人口は、平成7年当時は210万人を超えていたが、現在では196万人まで減少した

最も減少が著しかったのは、平成21年～平成24年でこの間に、約8万人の人口が減少した

平田村総人口推移

平田村の人口は、平成7年で8000人を超えていたが、現在では7000人を割り込んでいる

平成7年に8322人いた人口は平成24年現在では6694人に減少した。

出典: 福島県の推計人口(福島県現住人口調査結果)より作成

2-2 現状と問題点

震災概要

地震	東日本大震災	阪神・淡路大震災
発生日	平成23年3月11日	平成7年1月17日
地震規模	M9.0(観測史上最大)	M7.3
被害要因	津波、震災、原発	震災、火災
死者・行方不明者	24,027人	6,437人

東日本大震災と阪神淡路大震災の被害状況比較

放射能の影響

福島第一原子力発電所を中心とした放射能被災マップ (12月1日現在)

放射能測定マップ: <http://fukushima-radioactivity.jp/> 2012/11/30アクセス

2-2 現状と問題点

<現地の声>
 ・「出荷制限解除されたが、いつ止められるか不安である」 ※2011年7月出荷制限解除
 ・「自分たちが食べていくだけ作ればいい」
 ・「毎日、放射線量を見ながら生活している事自体が苦しい」

3-1 事例研究 いきつけの田舎 (平田村)

平田村の地域活性化活動

目的

大震災・原発事故により激減している来村者を体験型観光客として呼び込み、風評被害を払拭し、交流人口を増加させ地域振興に結びつきたい。

アクター

道の駅

イベント

稲・そば刈り、そば打ち体験などに参加

3-1 事例研究 農泊体験 (安心院)

日本型グリーンツーリズム定着の成功例

目的

儲からない農業、減少する農家への対策 農家は自分で値を決められない

活動

- ・ぶどう農園の宮田氏を中心に1992年にグリーンツーリズム研究会発足
- ・安心院町、大分県と連携のもと、1998年に先駆けて受け入れを開始
- ・2004年にNPO法人化

成果

一次産業と三次産業(観光業)の融合による収益と雇用の増加

(参考) 宮田静一「しあわせ農泊」西日本新聞社 2010年

3-1 事例研究 農泊体験 (安心院)

日本型グリーンツーリズム定着の成功例

副次的成果

町のコミュニティ形成を通じた「村づくり」

農泊は農山村空間を余暇空間として都市住民に提供していくこととされるが、農泊への取り組みを通じ地域住民自らが集落の実状を把握し、集落のあるべき将来像を描き実現していくといった「村づくり」としての効果があった

安心院グリーンツーリズム研究会

定例会議
 会長会議
 事務局
 応援団

広報部 ... 広報誌の発行、ホームページの作成・更新等

企画開発部 ... 新企画・商品の開発の検討等

アグリ部 ... 農業体験の実施、農業振興等

環境美化部 ... 安心院の環境づくり、農産物等

農泊部 ... 農村民泊の実施、農村文化体験等

応援団部 ... 様々な企画・活動の補助・積極的な参加等

研究会の活動

リバーサイドウォーク

農こづみ大会

外ヶ岡大作戦

ふるさと園遊

定例会

低農地講演会

農泊部自主研学会

九州G.T研修

国内先進地研修

会報誌「心のせんたく」

ドイツ研修

(参考) 宮田静一「しあわせ農泊」西日本新聞社 2010年

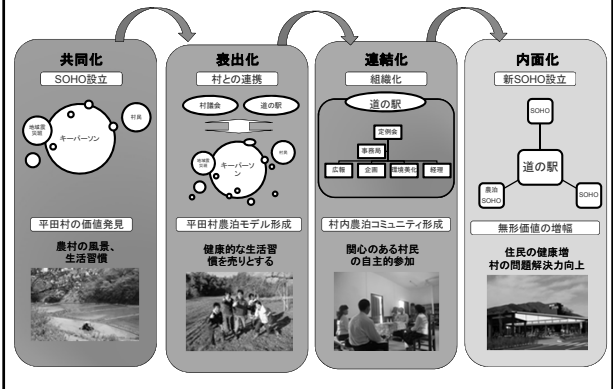
平田村活性化への提言

4章 検証

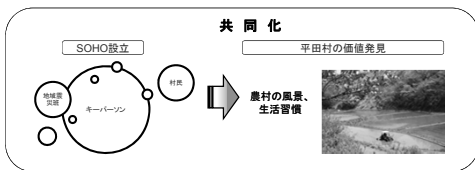
ひらたむら 農泊プロジェクト

～ 活性化効果をもたらすための
コミュニティデザイン～

農泊SOHOを活用したコミュニティの形成(図解)

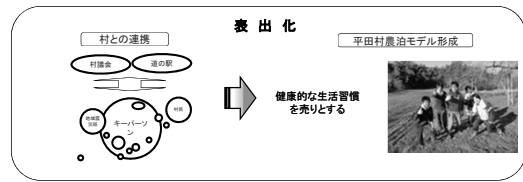


共同化



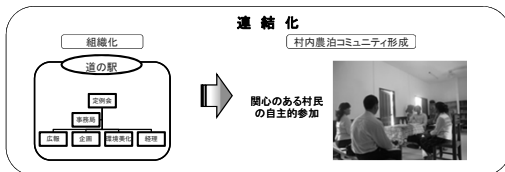
- 農泊キーパーソンによる価値の共有 (農家、農泊エキスパート)
- 農泊SOHOの設立 農泊内容の標準化

表出化



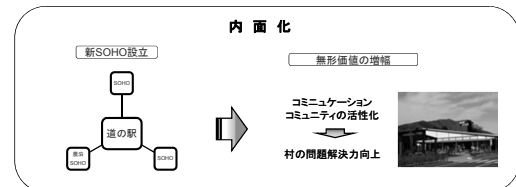
- “農泊プラン”の村議会への提案と承認 (予算化)
- 道の駅との協力体制
- 村民への情報提供

連結化



- サポート要員を村民から募集、組織化
- 道の駅による場の提供 (コミュニケーションスペース)
- 農泊PR (NETWORKの活用)

内面化



- 村民によるコミュニケーションの場の形成
- “農泊”成功体験の共有
- 無形価値の増加と増幅

課題

放射能の影響が、今後、平田村へ どのように影響するか分からない

- ・核汚染物質の中間貯蔵に関する地域調査に知事が善処の決断をされたあと、福島県はますます産業の振興にプレキがかかる可能性が否めない。
- ・福島第一原発は冷温停止はしているが、未だに汚染物質を毎日放出し続けている。



このような環境のもとで可能なビジネスを模索し提案をすることは、平田村村民の役割でもあり、伝来の土地を守り生きてゆかなければならない方々をまとめ、村民の合意のあるプログラムの推進にSOHOの立ち上げが有益と考える。

- ・クリーンエネルギー宣言の村としてソーラパネルの全農家設置
- ・屋根賃貸プロジェクト
- ・SOHOメンバーが村民であること
- ・綿密なプラン化が必要

ご清聴ありがとうございました

